

小学校 図画工作科 部会

部会長名 川崎町立真崎小学校 校長 金子 祥二

実践者名 福智町立伊方小学校 教諭 神崎 未悠

1 研究主題

「生きる力」を育む図画工作科指導の研究
～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して～

2 主題設定の理由

(1) 現代社会の要請から

現代社会は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であると言われている。このような知識基盤社会化やグローバル化は、アイデアなど知識そのものや人材をめぐる国際競争を加速させる一方で、異なる文化や文明との共存や国際協力の必要性を増大させている。このような状況において、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育むことがますます重要になってくる。

この激しい社会を担う子どもたちには、①生きて働く「知識・技能」、②未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力等」、③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」資質・能力が求められる。そこで、学校においてこれらの資質・能力を育むためには「社会に開かれた教育課程」の理念に立脚した組織運営の改善と授業改善を図ることが重要であるとし、「カリキュラム・マネジメント」と「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善が提起されている。

(2) 図画工作科の目標から

図画工作科のねらいは、「表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う」ことである。

図画工作科の学習は、自らの感性を働かせながら、造形的な創造活動の基礎的な能力を発揮して表現や鑑賞の活動を行い、つくりだす喜びを味わうものである。このような過程は、その本来の性質に従い、おのずとよさや美しさを目指すことになる。それは、生活や社会に主体的に関わる態度を育てるとともに、伝統を継承し、文化や芸術を創造しようとする豊かな心を育てることにつながる。

新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善を図るにあたり、各教科固有の「見方・考え方」を働かせることを深い学びへつなげるものとして重視している。図画工作科では、これを「造形的な見方・考え方」として、「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと」としている。「造形的な見方・考え方」の特徴は、知性と感性を共に働かせて対象や事象を捉えることである。これを身体で捉えていくことが、他教科以上に図画工作科が担っている学びであり、児童の「生きる力」を育む上で重要な働きをしていると考えられる。

(3) 児童の実態から

本学級の児童は、明るく元気のよい児童が多い。図画工作科に対しては、創造的な活動が苦手な児童が多く、初めて取り組むことに抵抗を持つ児童もいる。また、ていねいな作業ができる児童が多いが、最後まで集中できずに適当に作品を仕上げてしまう児童もいる。

自分の作品が完成したら終わり、友だちの作品に目を向けることはあまりなく、新たな考えを取り入れようとする姿はあまり見られない。また、色々な表現技法を知らず、中には混色せずに塗ってしまう児童もいる。

このような児童の実態から、本実践の「秋を感じて」で、モダンテクニックを知り、それぞれのよさを活かし、作品を作り上げることで、感性や想像力を働かせ、自分のイメージをもちながら価値をつくりだせるようにしたいと考える。

また、イメージを考えたり、友だちの作品を鑑賞したりする中で、友だちとの交流を重視し、自分と異なる考え方に触れて、自分の考えを形づくったり、広げたり深めたりすることにつなげていきたい。

3 主題の意味

(1) 「生きる力」を育む学習指導とは

「生きる力」を育む学習指導とは、各教科、特別の教科道徳、総合的な学習の時間及び特別活動において、子供の発達段階や特性等を踏まえつつ、次に掲げる3点の資質・能力を偏りなく育成できるような授業づくりを行うことである。

- ① 生きて働く知識・技能の習得させること。
- ② 思考力、判断力、表現力等を育成すること。
- ③ 学びに向かう力・人間性等を洒養すること。

(2) 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」とは

「主体的な学び」では、子ども自身が、興味をもって学習に積極的に取り組むこと、目的を認識し、学習へのふりかえりと見通しをもって学習活動に取り組むことが重要である。

「対話的な学び」においては、自分と異なる考え方に触れたり、向き合ったりすることで自分の考えを形づくったり、広げ深めたりすることにつなげていくことが重要である。

「深い学び」では、身に付けた資質・能力が活用・発揮されていくことでさらに伸ばされたり、新たな資質・能力が育まれたりしていくことが重要である。学習活動においては、この3つの学びが互いに関わりながらバランスよく実現していくように授業を改善していかなければならない。また、各教科でこの授業改善を図るにあたり、各教科固有の「見方・考え方」を働かせることを深い学びへつなげるものとして重視している。図画工作科では、これを「造形的な見方・考え方」として、「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら、意味や価値をつくりだすこと」としている。この「造形的な見方・考え方」の特徴は、知性と感性を共に働かせて対象や事象を捉えることである。身体を通して知性と感性を融合させながら、対象や事象を捉えていくことが、他教科以上に図画工作科が担っている学びであり、そのことを意識して実践を行っていかねばならない。

4 研究の目標

図画工作科学習指導において「生きる力」を育むために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の在り方を究明する。

5 研究仮説

図画工作科学習指導において、次のような手立てをとれば、児童は感性を働かせながら意欲的に活動し、主体的・対話的で深い学びを行い、「生きる力」を育むことができるであろう。

- (1) 児童が表現意欲をもって取り組むことができるようにするために、目的を明確にする。
- (2) 児童が考えを広げるために、友だちとの意見交流をする時間を設定する。
- (3) 児童の資質育成のために、友だちの作品のよさにふれる鑑賞活動を設定する。

6 研究計画（授業の計画）

(1) 題材「秋を感じて」

(2) 題材の目標及び指導計画

単元	秋を感じて	総時間	4時間	時期	10月
単元 の 目標	○表したい感じがよく表せるように、絵の具や他の画材材料を生かして使うことができる。 (知識及び技能) ○主題が効果的に表せるように、視点やものの配置など、構成のおもしろさを考えることができる。 (思考力・判断力・表現力等) ○自他の感じ方のよさやおもしろさ、表し方の工夫を感じ取り、つくりだす喜びを味わうことができる。 (学びに向かう人間性等)				
次	時	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点（援助・支援）	
一	1	○どんな作品にしたいかイメージしながら、秋を感じるものをスケッチしよう。	○外に出て、秋を感じながらかきたいものを見つけてスケッチする。	○秋のイメージをもたせるために、外に出て秋を感じるものを自分で見つけてスケッチさせる。 ○多様なイメージをもたせるために、気づいたことを友だちと交流させる。	
	2 ・ 3	○色々な表現技法を学ぼう。 ○考えたイメージに合う技法を選んで絵を描こう。	○色々な技法の使い方を知り、実際にためしてみる。 ○下書きをもとに、色々な技法を取り入れながら画用紙に絵をかく。	○秋の表現の仕方を多様化させるために、表現技法を体験させる。 ○意欲を継続させるために、適宜作品の評価を行ったりアイデアを伝えたりする。 ○よりよい作品にするために、友だちのアイデアを取り入れてもよいこととする。	

	4	○友だちの作品のよさを見つけ、組み合わせて1つの大きな作品を作ろう。	○作品を紹介しあい、一つの大きな模造紙にまとめ、コラージュして作品を完成させる。	○お互いのよさに気づくことができるようにするために、作品を紹介し、友だちとコミュニケーションを取りながら配置を考えるようにする。
--	---	------------------------------------	--	--

7 指導の実際

【第1時・・・導入】

本単元の指導にあたっては、「秋だなあ」と感じるものをみんなで話し合い、秋について感じるものを共有することから始めた。体育会や遠足などの学校行事をはじめ、コスモスやススキ、栗、さつまいもなどの植物や夕焼けといった景色まで幅広くイメージがふくらんだ。今回は居住地校交流で特別支援学校から友だちが来て一緒に大きな絵をかくということで、「秋だなあ」と感じるものの中から意見の多かったものを絞って表現することにした。

そこで、モダンテクニックをいくつか使った参考作品を見せ、どんな風にかいたのだろうと子どもたちは不思議に思いながらも、少し幻想的な作品を見て、いつもとはちがう新しいことに意欲的であった。いくつかモダンテクニックを体験させ、使えそうな技法を使って、みんなで絵をかくことにした。【写真 1・2】



【写真1：にじみたらし込み】



【写真2：デカルコマニー】

モダンテクニック（使った技法）

(1) デカルコマニー

紙などの上に塗った絵の具をペタッと写し取り、偶然できる色や模様を楽しむテクニック。色が混ざり合い、不思議な模様ができる。

(2) にじみたらし込み

にじみたらし込みとは、水や絵の具で濡らした画用紙に、絵の具をたらしてにじませるテクニック。画用紙が、水や絵の具で濡れているうちに他の色をたらすことで、きれいなにじみができる。

(3) スタンピング

スタンピング（型押し）とは、絵の具やインクを付けた様々な物を型として、画用紙などにその模様を押し写すテクニック。ペットボトルのキャップやダンボールなどの廃材や、葉っぱや木の枝などの自然の物を使うとよい。

(4) バチック

クレヨンやロウなどで絵や模様を描き、その上から多めの水で溶いた絵の具を塗るとクレヨンやロウの油分が絵の具を弾いて、絵が浮き上がってくる。

【第2・3時・・・制作】

班ごとに、画用紙にかく秋を指定して、制作をした。この時間は特別支援学校から居住地校交流で5年生の男の子が1人学級に入っており、一緒に活動を行った。班ごとに役割を分担したり、レイアウトを相談したりしながら協力して制作した。

各班で、できあがったもの6枚をはりあわせ、一枚の大きな絵にする。

<p>1班</p> <p>①画用紙でコスモスの花びらの型をつくる。</p> <p>②型の周りをクレパスで色をつけ、指でこする。</p> <p>③茎や葉をクレパスでかく。</p>	<p>4班</p> <p>①絵の具でお芋畑をかく。</p> <p>②クレパスでさつまいもとつる、そのまわりで芋掘りをする子どもたちをかく。</p>
<p>2班</p> <p>①福智山と鷹取山をかく。</p> <p>②デカルコマニーでカラフルなきのこをつくってはりつける。</p>	<p>5班</p> <p>①絵の具で木の幹をかく。</p> <p>②紅葉をイメージしながら、ティッシュでポンポンと木の周りの葉をつくっていく。</p>
<p>3班</p> <p>①クレパスでとんぼをかく。</p> <p>②その上から絵の具をにじませながら、夕焼けをかく。</p>	<p>6班</p> <p>①クレパスでとんぼをかく。</p> <p>②その上から絵の具をにじませながら、夕焼けをかく。</p>

【第4時・・・鑑賞】



【写真3：秋っていいな】

完成した作品の鑑賞会を行った。できあがった作品【写真3】をみて、子どもたちはとてもうれしそうだった。ひとりで仕上げるのではなく、みんなで制作をすることのよさを感じたようだった。特別支援学校からきた男の子も自分が描いた絵や作ったものがコラージュされている場所を見つけて楽しく鑑賞ができた。また、友だちのアイデアを見て、色の使い方や材料の工夫等に気がつくことができた。反省点として、絵のつながりをもう少し考えて、班をこえたコミュニケーションが必要だったと発言した子どももいた。

8 研究のまとめ

本研究のまとめとして、事前事後の児童の様子を比較した。

○ 事前の児童の様子

- ・自分だけで考え、自分のイメージで作品を作成していた。
- ・様々な絵の具の使い方があることを知らず、全て同じ調子で色を塗っていた。

○ 事後の児童の様子

- ・友だちとの交流を通して、よりよいアイデアを持つことができた。
- ・様々なテクニックを知り、用途によって使い分ける技術を身につけることができた。

児童の変容は明らかであるが、導入において、目的や条件を明確にしたことで、できあがりイメージし、意欲をもって取り組むことができたと考える。また、制作・鑑賞において、友だちとの交流する時間を設定することで、自分の考えを広げて、作品作りに生かしたり、お互いのよさに気づいたりすることができたと考える。

今回、「生きる力」を育むために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の在り方を究明するということで、実践を行ってきた。

成果は、ほんの僅かであるが、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた、授業改善の一步になったのではないかと考える。

9 成果と今後の課題

- 新しく知った技法を使うことで、今まで表現したことのない色や形を楽しむことができた。
- 目的や条件を明確にすることで、できあがりイメージした作品作りに取り組むことができた。
- 鑑賞を通して、班ごとの作品のよさやアイデアに気づくことができた。
- 主体的・対話的で深い学びにするために、完成した作品を1班ごとの作品に終わるのではなく、協働作品として、つながりのある1枚の絵にするなど工夫する必要がある。

◎ 参考文献

- 小学校学習指導要領解説 図画工作編 文部科学省
- 図画工作 学習指導書指導案編・開隆堂開隆堂出版株式会社 ホームページ 資料